

須崎港長期構想について

- ・ 今後迎える人口減少社会の克服に向け、須崎市では、地域活性化による持続可能なまちづくりを進めていくため、須崎市総合計画をはじめとする各計画において、須崎港の機能強化による産業振興を位置付けています。
- ・ 須崎港の港湾計画は平成11年に改訂されていますが、高速道路の延伸や湾口津波防波堤の完成など、須崎港を取り巻く社会状況や、港の利用状況は大きく変化しています。
- ・ 平成23年の東日本大震災を契機として、港湾における地震・津波対策のあり方など、港湾の担う役割は大きく変化しています。

須崎港の概ね20～30年後の将来像や、それを実現するための施策の方向性を「**須崎港長期構想**」として策定しました。

須崎港の課題と要請

- ・ 須崎港の抱える問題点、須崎港に対する要請を踏まえた、解決すべき須崎港の課題を以下に示します。

須崎港の現況

【物流】

- ・ 背後圏の産業を支える工業港
- ・ H26、27年港湾取扱貨物量は四国一
- ・ 主な取扱貨物は、石灰石・セメント・石炭・木材
- ・ 利用船舶は大型化（減載、潮待ちの発生）
- ・ 大峰地区では過密利用で待船が発生

【維持管理】

- ・ 港湾施設が老朽化（整備後40～50年を経過する施設が多数存在）

【災害】

- ・ 湾口部の津波防波堤完成（H26）
- ・ 湾口防波堤を粘り強い構造へ改良中
- ・ 津波漂流物（原木、漁船）が課題
- ・ 防災拠点港に位置付けているが耐震強化岸壁未整備

【交流】

- ・ クルーズ船、自衛艦船の入港実績はあるが、大型船は寄港困難

【環境】

- ・ 磯やげによる海域環境の悪化

須崎港の課題と要請

産業振興

◆産業振興に資する物流拠点の形成

- ・ 岸壁の過密利用への対策（岸壁延長不足）
- ・ 船舶大型化への対応（岸壁水深不足）
→ 既存産業の競争力強化
- ・ 新たな産業の創出（木材の輸出等）

◆港湾機能の持続性

- ・ 港湾施設の老朽化対策

安全・安心

◆防災・減災

- ・ 地震津波防災対策（ハード整備、漂流物対策）
 - ・ 災害がれき処分対策（がれき集積所確保）
- ##### ◆復旧・復興
- ・ 緊急物資供給能力確保（耐震強化岸壁整備）
 - ・ 地震津波防災対策（ソフト）

交流

- ・ みなとを核とした地域活性化・にぎわいの創出
- ・ 観光客（客船含む）の受入
- ・ 交流・集客施設の整備
- ・ イベントの充実
- ・ 豊かな漁場・環境の維持

背後地域の現況・課題

【社会状況】

- ・ 人口減少、少子高齢化のため雇用の維持・創出

【産業】

- ・ 港を利用する4つの産業（セメント、石灰石、木材加工、漁業）が地域経済を支えている（出荷額等が高幡地域全体の50%を占める）
- ・ 背後に優良な人工林が蓄積
- ・ 沿岸漁業や養殖業が盛んであり須崎の魚は高評価

【交通】

- ・ 四国横断自動車道が順次供用中
- ・ H25都市計画道路青木の辻線供用

【災害】

- ・ 港内で10～15mの津波が想定(最大)

【交流】

- ・ 港周辺では様々なイベント開催
- ・ 市民から遠い港湾、少ない港湾緑地

須崎港への要望

- ・ 港湾利用者からの声
バス過密利用対策、船舶大型化への対応、潮待ち・待船の解消、新たな産業用地確保、背後地ヤード拡充、原木の津波流出対策、水産振興事業の充実
- ・ 住民の声
大型岸壁の整備、企業誘致、老朽化施設の整備、津波防災対策、津波流出物対策、観光客受入施設の整備、訪れやすい須崎港の整備、集客の工夫、早急な港湾整備、ゴミや水質汚濁のないきれいな港づくり

上位関連計画

- ・ 須崎市総合計画
未来へつなぐ元気創造のまちづくりを進めるため港湾の機能強化による産業振興
- ・ 須崎市まち・人・しごと創生総合戦略
- ・ すさきがすさき産業振興計画
- ・ 第3期高知県産業振興計画
- ・ 高知県地域防災計画
- ・ 須崎市地域防災計画

須崎港の概要

- ・ 須崎港は、土佐湾のほぼ中央、高知市の西約30kmの須崎市に位置する重要港湾です。
- ・ 須崎港の背後には、石灰石積み出しやセメントの製造を行う企業、原木の製材・加工を行う木材団地などが立地し、四国一の取扱貨物量（平成26・27年）を誇る工業港として機能しています。



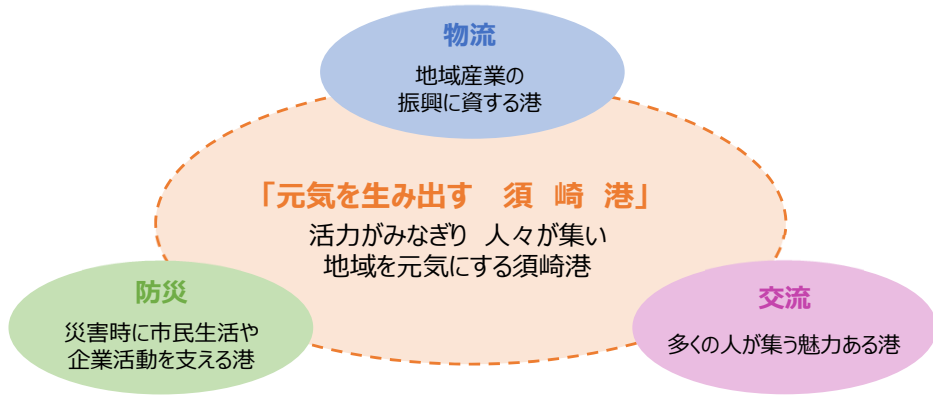
須崎港の課題と要請（地区別）

- ・ 須崎港の現状を巡る課題、及び住民や港湾利用者からの要請について、地区別の状況を以下に示します。



須崎港の将来像・須崎港長期構想の基本戦略

- 物流面では、企業が継続して活発に企業活動できる環境や、新たな産業の進出を促す立地環境を整え、工業港としてさらに物流機能の充実した「**地域産業の振興に資する港**」を目指します。
- 防災面では、住民の安全・安心を確保するとともに背後圏への緊急援助物資等の供給拠点として「**災害時に市民生活や企業活動を支える港**」を目指します。
- 交流面では、港湾周辺の住民が長く住み続けたいと感じる住環境や、多くの人をひきつける交流・にぎわい空間の創造をするなど「**多くの人が集う魅力ある港**」を目指します。
- 以上の3つの視点の将来像を統合した須崎港全体の将来像としては、背後圏の「**元気で明るい未来**」を先導する役割を須崎港が担っていくことを期待して、「**元気を生み出す須崎港**」～**活力がみなぎり、人々が集い、地域を元気にする須崎港**～とします。



須崎港で解決すべき課題に対する将来像実現のため、物流面、防災面、交流面のそれぞれにおいて、以下のとおり**基本戦略**を設定します。

須崎港の将来像	目指すべき姿	基本戦略
<p>物流 地域産業の振興に資する港</p>	<p>産業振興に資する物流機能の充実</p> <p>地域産業の持続的な発展のため、競争力強化に資する物流拠点の形成を目指す</p>	<p>1) 産業振興に資する国際物流ターミナル機能の強化</p> <p>2) 戦略的ストックマネジメントの推進</p>
<p>防災 災害時に市民生活や企業活動を支える港</p>	<p>災害に強い港づくりを目指すとともに、住民が安全・安心を実感できる港の構築を目指す</p>	<p>3) 地震・津波に対する防災・減災機能の強化</p> <p>4) 大規模災害からの早期復旧・復興に向けた港湾機能の強化</p>
<p>交流 多くの人が集う魅力ある港</p>	<p>地域資源を活用した魅力的な空間を形成し、にぎわいの創出や地域活性化を目指す</p>	<p>5) にぎわいのある港づくり</p> <p>6) 港と広域的な観光資源とのネットワークの形成</p> <p>7) 良好な海域環境の創生</p>

基本戦略の具体的施策

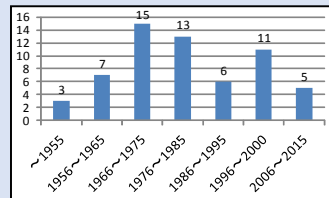
基本戦略1) 産業振興に資する国際物流ターミナル機能の強化

- 【大峰地区】国際物流ターミナル整備**
 - 現在、入港船舶の大型化による岸壁水深不足に伴い、減載や潮待ちが発生している大峰地区に、大水深岸壁（30,000DWTクラス）及び荷役施設等を整備し、石炭（輸入）やセメント（輸出）の物流コスト削減、物流の安定化による利用企業の競争力強化を目指す。
- 【港町地区】国際物流ターミナル整備**
 - 現在、木材団地で扱う原木の輸入が行われている港町地区に大水深岸壁（30,000DWTクラス）及びヤードを整備し、木材（輸入）の物流コスト削減による利用企業の競争力強化と新たな産業（木材輸出等）の創出を図り、地域経済の活性化を目指す。
- 【大峰地区・港町地区】航路、泊地の増深**
 - 中長期的に、さらなる船舶の大型化に対応するため、航路、泊地の増深（40,000DWTクラス）を実施します。



基本戦略2) 戦略的ストックマネジメントの推進

- ①適切な維持管理計画の更新**
維持管理計画に基づいた点検・補修・長寿命化工事の実施
 - 平成23年、24年に策定した維持管理計画に基づき点検・調査を実施するとともに、施設の劣化状況や利用状況をふまえて対策の順位づけを行い、適切な時期に補修・長寿命化工事を実施していきます。
- ②【大峰地区】大水深岸壁の整備による施設の更新**
- ③【港町地区】大水深岸壁の整備による施設の更新及び既存ストック機能の見直し**
施設の機能向上に合わせて、既存ストックの機能の集約化や必要なスペースの見直し等を図ることにより、コンパクトで効率的なふ頭へ再編します。



基本戦略3) 地震・津波に対する防災・減災機能の強化

- ①津波防波堤の粘り強い化、防潮堤の整備**
 - 平成26年に津波防波堤の整備が完了しており、引き続き粘り強い化や防潮堤の整備を実施し、津波に対する防護機能を強化します。
- ②漂流物対策事業導入に向けての検討・整備**
 - 木材や船舶などの漂流物対策施設の検討・整備を行うことや、漂流物対策として原木固縛を継続的にを行い、地域の安全・安心を向上します。
- ③津波漂流物・ガレキ集積場所の位置検討（セメント工場等と連携）**
 - 津波により発生する漂流物等のガレキの集積場所の確保や、港に立地するセメント工場と連携したガレキ処理について検討し、早期の復旧・復興を支えます。ガレキの集積場所については串の浦地区ブロックヤード跡地の活用を検討します。



基本戦略4) 大規模災害からの早期復旧・復興に向けた港湾機能の強化

- ①【港町地区】-7.5m 1号岸壁を緊急物資輸送拠点として活用**
 - 緊急物資輸送拠点は、広域・地域防災拠点へのアクセス性等を総合的に考慮して、港町地区に配備します。当面は、最大クラスの地震に対しての耐震性を有している港町地区-7.5m 1号岸壁を緊急物資輸送拠点として活用します。
- ②【港町地区】大水深岸壁整備にあわせて耐震強化岸壁の整備**
 - 港町地区への大水深岸壁整備にあわせ、大規模災害時における緊急物資輸送用の耐震強化岸壁として整備します。
- ③訓練等を通じた実効性の向上による港湾BCPの充実（BCM実施）**
 - 定期的な机上訓練や緊急物資輸送訓練等を通して、PDCAサイクルに基づいた港湾BCPの充実を図り、須崎港のBCM（事業継続マネジメント）に繋げていきます。



→次頁：基本戦略5 に続く

基本戦略5) にぎわいのある港づくり

- ①魚市場改修や魚まつり等の地域イベントによる賑わいの創出
 - 既存のにぎわい資源であるまちかどギャラリーやご当地キャラクターまつり、魚まつり及び魚市場の改修など、地域活性化に向けた取組みを進め、「みなと」を活用したにぎわいの創出を図っていきます。
- ②港周辺の施設を地域活性化に資するスペースとして活用
 - 市民の憩い場である富士ヶ浜（魚市場周辺）や、串の浦地区の直轄ブロックヤード跡地など、地域資源を活用した地域活性化の方策を検討します。



基本戦略6) 港と広域的な観光資源とのネットワークの形成

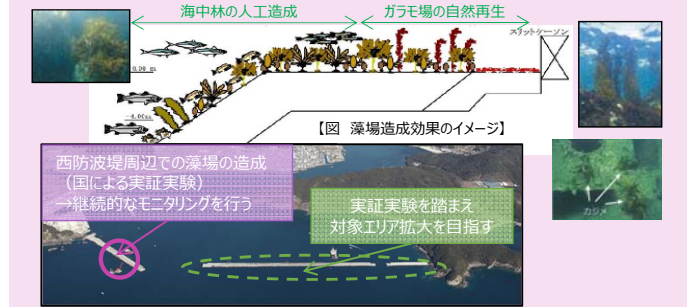
- ①クルーズ船受入・誘致体制の構築、誘致コンテンツの開発
 - 背後圏も含めたクルーズ船受入・誘致体制を構築し、奥四万十などの観光資源を生かした国際観光の活性化を図ります。



- ②既存ストックの有効活用を図りながら、大型クルーズ船等を誘致
 - 港町地区への大水深岸壁の整備にあわせ、さらなる大型クルーズ船の誘致を行い、国際観光の活性化を図っていきます。

基本戦略7) 良好な海域環境の創生

- ①実証実験を踏まえた防波堤における藻場造成の範囲拡大
 - ②継続的なモニタリング、藻場の維持管理
 - 実証実験を踏まえ、防波堤全域への藻場造成へつなげるとともに、継続的なモニタリング及び藻場の適切な維持管理を行うことにより、海域環境の改善や水産振興策（放流事業など）を併せて漁業の活性化を図っていきます。



施策の内容	スケジュール		
	短期(10年)	中期(20年)	長期(30年)
産業振興に資する物流機能の充実			
1) 産業振興に資する国際物流ターミナル機能の強化			
①【大峰地区】国際物流ターミナル整備	→		
②【港町地区】国際物流ターミナル整備		→	
③【大峰地区・港町地区】さらなる航路、泊地の増深		→	→
2) 戦略的ストックマネジメントの推進			
①適切な維持管理計画の更新、維持管理計画に基づいた点検・補修・長寿命化工事の実施	→	→	→
②【大峰地区】大水深岸壁の整備による施設の更新	→		
③【港町地区】大水深岸壁の整備による施設の更新及び既存ストック機能の見直し		→	→
住民・港湾を守る防災機能の充実			
3) 地震・津波に対する防災・減災機能の強化			
①津波防波堤の粘り強い構造への改良、防潮堤の整備	→		
②漂流物対策事業導入に向けての検討・整備	→	→	
③津波漂流物・ガレキ集積場所の位置検討（セメント工場等と連携）	→	→	
4) 大規模災害からの早期復旧・復興に向けた港湾機能の強化			
①【港町地区】-7.5m 1号岸壁を緊急物資輸送拠点として活用	→		
②【港町地区】大水深岸壁整備にあわせて耐震強化岸壁の整備	→	→	
③訓練等を通じた実効性の向上による港湾BCPの充実（BCM実施）	→	→	→
住民・来訪者が楽しめる交流機能の充実			
5) にぎわいのある港づくり			
①魚市場改修や魚まつり等の地域イベントによる賑わいの創出	→		
②富士ヶ浜など港周辺の施設を地域活性化に資するスペースとして活用	→	→	
6) 港と広域的な観光資源とのネットワークの形成			
①クルーズ船受入・誘致体制の構築、誘致コンテンツの開発	→		
②既存ストックの有効活用を図りながら、大型クルーズ船等を誘致	→	→	
7) 良好な海域環境の創生			
①実証実験を踏まえた防波堤における藻場造成の範囲拡大	→		
②継続的なモニタリング、藻場の維持管理	→	→	→

空間利用ゾーニング

基本戦略を踏まえた、須崎港長期構想における空間利用ゾーニングを以下のように設定します。

